

青山正義編

孝經

# 脩身書

大黒屋

## 修身書卷之二

青山正義編

嘉言篇第二

- ① 身を立るハ學を勉むるを以て先とす。
- ② 名をあげて。父母を顯すハ。孝の終なり。

五種遺記

孝經

礼記

新書

孝經

傳氏

③ 玉琢かざれば。器を成さず。  
 人學バざれば。道を知らず。  
 ④ 前車の覆るも。後車の戒を  
 り。

⑤ 過ちて。善く改むるは善の  
 大なる者あり。

⑥ 禍福を門なし。唯人の招く

所あり。

⑦ 學を好むは知も近し。耻を  
 知るも。勇も近し。

⑧ 人徒らも。一生を過ぐるも。

禽獸も同し。

⑨ 博く之を學び。審かに之を  
 問ひ。慎て之を思ひ。明かす之

中庸

景  
卷

庸

聖諭

を辨へ。篤く之を行ふ。  
⑩ 人の鏡となれ。人の戒とな  
るなりき。

聖書

⑪ 徳も博く人を愛するより。  
高きはなり。

私記

⑫ 君子ハ敬せざることを下  
身を敬するを大なりとす。

貝原  
篤信

⑬ 道を教へし師は其恩最重  
し。君父と同トく尊ぶべし。

楠正  
成

⑭ 學問を怠る者と勿れ。言行  
を亂ること勿き。

貝原  
篤信

⑮ 凡一念惡を思ひ。一事惡を  
行へむ。天道より背く。恐るべし。

中庸

⑯ 己を成むを仁なり。物を成

論語

其も知あり。

⑤ 言を以て人を擧げず。人を

以て言を廢せず。

同

⑥ 之は居て倦むこと無く之

を行ふは忠を以て也。

程子

⑦ 孝弟家を行はれて後仁愛

物も及ぶ。

雙清

⑧ 凡る事皆始めを謹み終り

を慮るべし。

省心雜言

⑨ 勝つことを好む者ハ必争

ふ。

⑩ 勤むれば貧も勝ち慎めを

禍も勝つ。

初学訓

⑪ 名なき名どと人よハ言ひてやみふ事。

おろろのともむづいのもむらん。

嘉言篇第二終

附録 生徒心得第二

- ① 朋友来りて。誘ふ時ち。必父母に告げて。其許可を得て後に行くべし。
- ② 父母に告げむして。恣に物を交易せむべからず。
- ③ 朋友の家に至りては其父母にも挨拶せむべし。又食時よ及むと歸るべし。
- ④ 人の家に行きて其坐上の器物或も花の類へ。決して手を觸るべからず。

⑤ 過て人の物を損ドたるときは速に之を謝し。父母より乞ふて之を償ふべし。然きども人其償ひを受けざれば謝して止むべし。

⑥ 衣服も清潔に保ち汚れたる物も觸れざる様注意せべし。

⑦ 長者物を賜ふときは拜して之を受納し。假令我が好まざる物よても其面前よて人より與へたどまざる勿き。

⑧ 我が衣服綺麗ありとて人の衣服の美惡を言ふべからむ。

⑨ 假令穢しも人の物を取ら度しなど決して為さべからむ。

⑩ 人を笑ひ人を嘲けるも非禮の甚しきことなむ。慎むべし。

⑪ 人と同しく道を行き物を分ち取る時などは能く譲るべし。

⑫ 來客ありて酒食を備むる時も父母

の命はあらざれば其席は出づる志を  
なすべき

① 兄弟ハ年も長ト物事を能く辨へ  
多れば弟妹を愛護し之を善く導くべし

② 父母は次ぎて親敬をべき者ハ兄弟  
なきを能く其誘導に従ひ不悌のふる  
まひ有るべからず

③ 兄弟は弟妹を親愛し弟妹ハ兄弟を  
信敬をべし

修身書卷之二